

村宮 克彦 (Katsuhiko MURAMIYA)

大阪大学大学院 経済学研究科
560-0043 大阪府豊中市待兼山町 1-7

Phone: 06 6850 5238
E-mail: muramiya@econ.osaka-u.ac.jp

生年月日

1980年2月12日生 (40歳)

学歴

2002年3月 大阪市立大学商学部卒業

2004年3月 神戸大学大学院経営学研究科博士課程前期課程修了

2007年3月 神戸大学大学院経営学研究科博士課程後期課程修了

2007年3月 神戸大学より博士 (経営学) を取得

職歴

2006年04月 ~ 2007年09月 大阪産業大学経営学部客員講師

2007年04月 ~ 2007年09月 神戸大学大学院経営学研究科学術推進研究員

2007年10月 ~ 2013年03月 神戸大学経済経営研究所講師

2010年04月 ~ 2012年03月 中央大学大学院商学研究科兼任講師

2013年04月 ~ 2015年03月 大阪大学大学院経済学研究科講師

2015年04月 ~ 大阪大学大学院経済学研究科准教授

その他

- 2017年12月 ～ 行動経済学会監事
- 2019年09月 ～ 経営財務研究学会評議員
- 2019年09月 日本経営財務研究学会 第43回全国大会実行委員
- 2019年11月 行動経済学会 第13回大会プログラム委員
- 2019年11月 日本ファイナンス学会 第1回秋季研究大会プログラム委員
- 2019年11月 ～ 「行動経済学」編集委員
- 2020年03月 日本経済会計学会 (AEAJ) ワークショップ プログラム委員

研究業績

分担執筆

(教科書・分担執筆)「農業 (IAS41)」桜井久勝編『テキスト国際会計基準 新訂版』白桃書房, 194–199頁, 2018年.

(研究書・分担執筆)「GC 予測と将来リターンの関連性」(浦山剛史と共著)桜井久勝・音川和久編『会計情報のファンダメンタル分析』中央経済社, 175–197頁, 2013年.

(研究書・分担執筆)「受注残高情報と将来業績の関連性」(小野慎一郎と共著)桜井久勝・音川和久編『会計情報のファンダメンタル分析』中央経済社, 199–227頁, 2013年.

(研究書・分担執筆)「残余利益モデルを構成する財務比率の特性分析」桜井久勝編『企業価値評価の実証分析—モデルと会計情報の有用性検証』中央経済社, 230–269頁, 2010年.

論文

(査読有)“How Cross-Shareholding Influences Financial Reporting: Evidence from Japan,” (with Tomomi Takada) *Corporate Governance: An International Review*, forthcoming.

(査読無)「対数線形・現在価値法に基づく事業の資本コスト」(小野慎一郎と共著)証券アナリストジャーナル, 第57巻第10号, 39-50頁, 2019年.

(査読無)「ビッグデータと会計研究」(竹原均と共著)証券アナリストジャーナル, 第56巻第12号, 25–35頁, 2018年.

(査読無)「組替財務諸表に基づく ROE 予測の有効性」(小野慎一郎・椎葉淳と共著)国民経済雑誌, 第218巻第1号, 59–79頁, 2018年.

(査読有)「クリーンサープラス関係を利用した時間的に変動する期待リターンの推計」(小野慎一郎と共著)証券アナリストジャーナル, 第55巻第10号, 70–81頁, 2017年.

(査読有)“Quality of Financial Inputs and Management Earnings Forecast Accuracy in Japan,” (with Tomomi Takada) *Journal of Contemporary Accounting and Economics*, 13 (2): 179–191, 2017.

(査読無)「将来予測シグナルとしての受注残高情報」(小野慎一郎と共著)証券アナリストジャーナル, 第51巻第12号, 37–49頁, 2013年.

(査読無)「大手監査事務所の保守的行動に関する分析」(高田知実と共著)国民経済雑誌, 第208巻第4号, 53–68頁, 2013年.

(査読無)「業績予想の開示・非開示が情報の非対称性に及ぼす影響」証券アナリストジャーナル, 第49巻第6号, 18–29頁, 2011年.

(査読無)「企業の情報開示と株主資本コスト」IR-COM, 10月号, 4–7頁, 2010年.

(査読無)「監査サービスの変容が利益の保守性に及ぼす影響に関する実証分析」(高田知実と共著)国民経済雑誌, 第201巻第2号, 55–65頁, 2010年.

(査読有)「経営者が公表する予想利益に基づく企業価値評価」現代ファイナンス, 第23号, 131–151頁, 2008年.

(査読無)「倒産企業の財務比率の時系列特性」(桜井久勝と共著)国民経済雑誌, 第196巻第6号, 1–16頁, 2007年.

(査読無)「企業情報の開示と株主資本コストの関連性」(音川和久と共著)会計, 第169巻第1号, 79–93頁, 2006年.

(査読有)「経営者が公表する予想利益の精度と資本コスト」証券アナリストジャーナル, 第43巻第9号, 83–97頁, 2005年.

書評

斎藤静樹『企業会計入門』有斐閣, 企業会計, 第67巻第4号, 142頁, 2015年.

Ito, Kunio and Makoto Nakano (Eds.), *International Perspectives on Accounting and Corporate Behavior (Advances in Japanese Business and Economics)*, Springer, 2014. 証券アナリストジャーナル, 第52巻第11号, 99–101頁, 2014年.

その他

Informed Trader and Market Efficiency, *Research Arena (Kobe University)*, Vol. 2, No. 2, 5–6.

学会報告等研究活動

研究報告

(発表)「対数線形・現在価値法による加重平均資本コストの推定」第11回TGH会計ファイナンス研究会, 法政大学, 2019年7月.

(発表)「会計情報と期待リターン」武蔵経済セミナー, 武蔵大学, 2019年3月.

(発表)「投資ベースの資産価格モデルと会計発生高の将来リターン予測能力」第7回大阪市立大学会計研究会, 大阪市立大学, 2018年3月.

(発表)“Investment-Based Asset Pricing Model and Predictive Power of Accruals for Future Returns,” Nagoya Finance Workshop, 名古屋大学, 2017年9月.

(発表)“What Moves Firm Values?” Workshop on Empirical and Experimental Accounting Research, 福井県立大学, 2016年3月.

(発表)“What Moves Firm Values?” 第1回JARDISワークショップ, 県立広島大学, 2016年3月.

(発表)「時間を通じて変動する期待リターンの推計とICC研究の新展開」第5回大阪市立大学会計研究会, 大阪市立大学, 2016年3月.

(発表)“Do Lower R^2 Values Signify Informativeness or Noise? Evidence from the Great East Japan Earthquake,” 日本会計研究学会第65回関西西部会, 大阪市立大学, 2015年12月.

(発表)“How Do Investors Trade When Actual Earnings Are Reported with Management Forecasts?” 名古屋市立大学会計系クラスターセミナー(現代会計政策研究会共催), 2014年12月.

(発表)“Stock Crash and R^2 around a Catastrophic Event: Evidence from the Great East Japan Earthquake,” 東北大学会計大学院会計研究会, 2013年12月.

(発表)“Stock Crash and R^2 around a Catastrophic Event: Evidence from the Great East Japan Earthquake,” 東京経済大学現代ファイナンス研究センター・研究セミナー, 東京経済大学, 2013年11月.

(発表)“Financial Reporting Opacity, Stock Price Synchronicity, and Catastrophe-Based Stock Crash,” 名古屋大学ファイナンス研究会, 名古屋大学, 2013年6月.

(発表)“Financial Reporting Opacity, R^2 , and Catastrophe-Based Stock Crash,” Handai Accounting Research Seminar (HARS), 大阪大学, 2012年9月.

(講演)「ディスクロージャーの経済的帰結」日本 IR 協議会第 26 回関西部会, ハートンホール日生御堂筋ビル, 2011 年 9 月.

(発表) “How Do Investors Trade When Actual Earnings Are Reported with Management Forecasts?” 伊藤邦雄研究会, 一橋大学, 2011 年 7 月.

(発表) “Reporting of Internal Control Deficiencies, Restatements, and Management Forecasts,” 2011 Annual/Summer International Conference, Korean Accounting Association, Lotte Hotel Jeju, June 2011.

(発表) “Information Asymmetry of Cross-Held Companies in Japan,” 武蔵大学ワークショップ, 武蔵大学, 2011 年 3 月.

(発表) “Investor-Level Reactions to Earnings Announcements: Evidence from Japan,” 2011 The Japanese Accounting Review Conference, Takigawa Memorial Hall, Kobe University, February 2011.

(発表) “Reporting of Internal Control Deficiencies, Restatements, and Management Forecasts,” Asian Academic Accounting Association, Annual Conference, The Shangri-la Hotel, Bangkok, November 2010.

(発表)「投資家の異質性を前提とした決算発表に対する投資行動分析」中央大学企業研究所ワークショップ, 中央大学, 2010 年 10 月.

(発表) “Reporting of Internal Control Deficiencies, Restatements, and Management Forecasts,” American Accounting Association, Annual Meeting, Hilton San Francisco Union, August 2010.

(発表)「資本コストを用いた会計研究の潮流」中央大学企業研究所公開研究会, 中央大学, 2009 年 12 月.

(講演)「資本コストを用いた会計研究の潮流」滋賀大学経済学部講演会, 滋賀大学, 2009 年 11 月.

(発表) “Management Earnings Forecast and Asymmetric Timeliness of Earnings,” American Accounting Association, Annual Meeting, Hilton New York, August 2009.

(発表) “Abnormal Accrual, Informed Trader, and Long-Term Stock Return: Evidence from Japan,” Workshop on “Business Science in the Global Economy”, 神戸大学, 2009 年 1 月.

(発表)「経営者が公表する予想利益と市場のミス・プライシング」兼松セミナー(現代会計学研究会共催), 神戸大学, 2007 年 11 月.

(発表)「経営者の予想バイアスと投資者の利益予測の困難性」日本会計研究学会第 66 回全国大会, 松山大学, 2007 年 9 月.

(発表)「経営者が公表する予想利益の精度と資本コスト」兼松セミナー，神戸大学，2007年5月。

(発表)「企業情報の開示とアナリストの情報精度」日本会計研究学会第64回全国大会，関西大学，2005年9月。

討論

森脇敏雄「沈黙期間の設定と情報の非対称性」日本経営財務研究学会第43回全国大会，神戸大学，2019年9月。

山田徹・後藤晋吾「データマイニング法を用いたファクターモデル比較」日本ファイナンス学会第27回大会，慶應義塾大学，2019年6月。

高橋秀徳・岡田克彦，“No whisper, No value? The Effect of Analysts’ Earnings Preview Ban and Stock Market Behavior surrounding an Earnings Announcement,” 日本経営財務研究学会第42回全国大会，一橋大学，2018年10月。

首藤恵・竹原均，“Management Forecast Bias and Corporate Social Responsibility Awareness: Evidence from Japan,” 日本ファイナンス学会第25回大会，千葉工業大学，2017年6月。

CHIU, Peng-Chia and Tim HAIGHT, “The Role of Matching in Detecting Post-Earnings-Announcement Drift: An Intertemporal Analysis,” The 6th International Conference of *THE JAPANESE ACCOUNTING REVIEW*, 神戸大学，2015年12月。

角田健一郎・岡田克彦「受注残高情報と会計発生高による株価予測の可能性」日本ファイナンス学会第23回大会，東京大学，2015年6月。

岩本純一「個別銘柄取引から推定した市場全体の状況について」日本金融学会2014年度春季大会，慶應義塾大学，2014年5月。

川島健司「東日本大震災によるディスクロージャー実務への影響—被災地企業に関する定性的調査」日本ディスクロージャー研究学会第7回研究大会，福島学院大学，2013年5月。

研究助成金

科学研究費：基盤研究 (C)「会計情報の実際的有用性の再検討：高頻度データを用いた実証分析」(研究代表者)，2020~2022年。

科学研究費：基盤研究 (B)「利益情報の役割の再検討：収益性とリスクの評価に関する総合的研究」(研究分担者)，2018~2021年。

科学研究費：基盤研究 (C)「財務報告の質がリスク指標に及ぼす直接的影響の検証」(研究代表者)，2016~2019年。

科学研究費：若手研究 (B)「企業固有ボラティリティとクラッシュ・リスクに基づく財務会計の機能の検証」(研究代表者), 2013~2015年.

科学研究費：基盤研究 (B)「国際財務報告基準 (IFRS) 時代の財務報告の質に関する実証的評価」(研究分担者), 2011~2013年.

科学研究費：若手研究 (B)「決算発表と私的情報に基づく取引確率との関連性に関する実証研究」(研究代表者), 2009~2011年.

科学研究費：基盤研究 (C)「監査サービスの変容が会計情報と資本市場に及ぼす影響の実証分析」(研究分担者), 2009~2012年.

科学研究費：基盤研究 (A)「会計情報を活用した企業評価に関する総合的研究」(研究協力者), 2007~2009年.

財団法人全国銀行学術研究振興財団 研究助成 「私的情報に基づくトレーダーの取引確率が会計発生高アノマリーに及ぼす影響に関する実証研究」(研究代表者), 2009年.

科学研究費補助金：基盤研究 (C)「経営者が公表する予想利益と市場の効率性」(研究代表者), 2007~2008年.

受賞歴

2005年証券アナリストジャーナル賞 (“村宮克彦「経営者が公表する予想利益の精度と資本コスト」証券アナリストジャーナル, 第43巻第9号, 83-97頁, 2005年” に対して)

2018年度日本経営財務研究学会学会賞 (“小野慎一郎・村宮克彦「クリーンサープラス関係を利用した時間的に変動する期待リターンの推計」証券アナリストジャーナル, 第55巻第10号, 70-81頁, 2017年” に対して)

令和元年度大阪大学賞 (若手教員部門)

社会活動

学術誌レフェリー等

Australian Journal of Management

Japan & the World Economy

The Japanese Accounting Review

Review of Development Economics

現代ファイナンス

現代ディスクロージャー研究

会計プロセス

第1回「碩学舎賞」予備審査レビュアー

Last updated: June 2, 2020